

議論の流れに沿うかどうか分かりませんが、障害当事者としての自分の経験から、一般就労への移行と定着に関連して発言させていただきます。

私自身、どこにもつながっていなくて、ひとりぼっちだった頃、やみくもに就労はしてみるものの、うまくいかなかったことで大変傷つき、病気に逃げ込んだととらえて卑屈になるということを10年位のあいだ、繰り返した経験を持っています。

その後、保健所のデイ・ケアへの参加を契機に、地元のフリー・スペースの運営にも参加するようになり、仲間や支援者の人達に力をもらい、アルバイトですが、一般就労することができました。

現在は、アルバイトのかたわら、地元の就労継続支援 B 型事業所にも通所しており、手厚い個別的な支援も受けつつ、ささやかながらピア・サポーターとしても活動しております。

私の経験から、障害当事者の一般就労を含む社会参加には、いろいろなステップ、段階があり、本人の希望や実情にあわせたステップアップへの誘導とそのため組織横断的な連携（ネットワーク）が大切ではないかと思います。

また、本人が、その人らしく、安心して就労し、働き続けられるための、きめこまやかな個別支援体制づくりが、とりわけ重要ではないかと思います。

抽象的な質問になってしまったことは、大変申し訳ありません。以上です。